

新版教科書で、 こんな授業がしたい

編集委員の甲斐利恵子先生（東京都港区立赤坂中学校教諭）と宗我部義則先生（お茶の水女子大学附属中学校教諭）に、新教材を使った授業のアイデアをお聞きました。

甲斐利恵子先生のアイデア



甲斐利恵子

福岡県生まれ。東京都港区立赤坂中学校教諭。光村図書中学校『国語』教科書編集委員。専門は国語科単元学習。著書に、『子どもの情景』（共著・光村教育図書）、『聞き手話し手を育てる』（共著・東洋館出版社）など。

心を開く 「国語教室びらき」

「花曇りの向こう」（二年）

読む

クスツとおもしろくて、ほんのちよつと胸がツンとする。そんな瀬尾まいこさんらしい温かさが感じられる、とてもよい作品ですね。一年生の一学期といえまだ、子どもたちは、新しい人間関係をうまく作れずにいる時期。「授業でどんな発言をしたらいんだらう」などと、たくさんの不安

気に入った会話を発表し合う

一方で、作品の魅力の一つである、軽妙な会話にも注目したいところです。ですから、私なら、「いちばん気に入った会話を発表し合う」という授業をしたいですね。会話文だけを抜き出した一覧表をこちらで用意し、その中から、子どもたちに気に入ったものを一つ選ばせ、理由とともに発表させるんです。

みんなで会話文の一覧表を見るだけでも、教室の空気はやわらかくなるはず。「こんなことを考える子なんだな」と、教師がここにしながら発表を聞いていられるのも、この作品のよさです。学習のルールも、楽しい雰囲気の中で伝えていけるでしょう。

そして、授業の終わりには、「ばあちゃんってどんな人？」「川口君ってどんな人？」などと尋ね、好きな登場人物の人物像について、簡単に述べさせてみたいと思います。そうすれば、この後の学習で、人物像や作品における人物の役割について考えるときにステップにもなります。



「花曇りの向こう」（1年）

「登場人物が魅力的なんですよ。特に、『ばあちゃん』が存在する意味は大きい。そのことを、子どもたちと語り合いたい」と、甲斐先生。

科学の出発点に光を当てる

今、考えているのは、「なぜ」と問う人」という単元です。これは、現代の科学技術を生み出した人について調べて考えの道筋をたどり、出発点の「問い」が何だったのかを考えるという学習。最相さんのご著書『調べてみよう、書いてみよう』（講談社）には、問いを立てて調べる過程が紹介されているので、これを使って「問い」にさかのぼることもできそうです。

「なぜ」と問う人たちの、科学の出発点に光を当てることで、問うこと、問いを柱にして物事を追究することの価値を、子

学ぶというつとめと再考 「三年間の歩みを振り返ろう」（三年）

話す
聞く
書く

単なる思い出ではなく、「学び」を振り返るというのが、すばらしいですね。特に、「三年間の歩みを振り返ろう」（三年）がいいと思います。私自身、中学校三年間の学びを振り返る「学ぶということ再考」という単元を実践したことがあります。子どもたちは、三年間で劇的な成長を遂げています。今の自分に成長の実感があるから、過去の未熟さを客観的に見ることができて、学びについて語り合うことが、とてもしつくりきたのを覚えています。

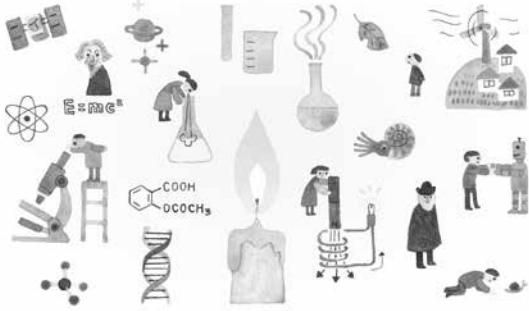
このとき大切なのが、「何を通して」振り返るか。私は、印象に残った「言葉」、何かを教えてくれた「人」という二つの観点で振り返らせました。教科書P21には、

「なぜ」と問う人

読む

「科学はあなたの中にある」（二年）

授業をするのが特に楽しみなのが、この説明文です。私、筆者の最相葉月さんのファンなんです（笑）。以前、最相さんと対談をさせていただいたとき（※1）に感じたのは、彼女が自分の中にある問いを原動力にして、その答えを求めて人にぶつかっていく、エネルギーの力強さです。その力強さがノンフィクションという文章を紡ぎ出しているということに圧倒されました。この文章も同じはず。説明文ではありますが、子どもたちに、筆者の思いを読み取らせるのもいいと思います。



「科学はあなたの中にある」（2年）

「『平らかな気持ちで検証し、真実に一歩でも近づこうとする』（教科書 P223 L6・7）」という部分から、筆者の価値観が読み取れます。この価値観に出会わせたいんです。

他の観点も示されているので、それを参考にすることもできますね。

学習記録を活用

過去の教科書を取っておけば、それを使って振り返ることはできると思いますよ。ちなみに、私は、三年間ずっと子どもたちに学習記録をつけさせているので、それを使いました。学習記録があれば、より具体的に、学びを振り返ることができるかもしれません。各学年の教科書冒頭「続けてみよう」では、記録やメモの取り方が紹介されています。これを活用しながら学習記録をつけて、この学習のための準備をしておくのもいい方法だと思います。

学習用語に 出会ったときに

「文学的な文章を読むために」
「説明的な文章を読むために」
(一〜三年)

読む

各学年の巻末折り込み「文学的な文章を読むために」「説明的な文章を読むために」は、ぜひ活用したいページです。文学・説

明文を読むときの学習用語が整理された(本誌P6参照)のは、非常にうれしいことです。子どもたちが学習用語を身につけ、使えるようになることの意義は大きいと、私はつねづね思っているからです。

ものの見方・考え方の 観点をつくる

例えば、「故郷」(三年)で、「なぜ、ヤンおばさんはこの作品に登場したのか」を考えるためには、「登場人物の設定」という概念を理解している必要があるでしょう。そして、私たちは、そうした概念を言葉とともに獲得していきます。つまり、抽象的な概念を定義づけた学習用語を身につけることで、ものの見方・考え方の観点がつくられていくのだといえます。

授業の中では、積極的に学習用語を使って、子どもたちに浸透させていきたいですね。まずは、学習用語に出会うたびに、この折り込みを開いて、みんなで確認するところから始めてみるつもりです。

文学的な文章を読むために(物語・小説)

ここには、文学的な文章を読むための基本的な学習用語をまとめている。作品を読む際には、この折り込みを開いて、作品の読み出し前を必ず読む。

文学的な文章の観点

文学的な文章は、物語や小説・短編などの物語や詩・短歌・俳句などの歌文である。物語や小説には、登場人物の行動や心理の描写、環境の描写、時間や場所の描写などがある。また、登場人物の心理や感情の描写、作者の考えや感情の描写などがある。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

観点

物語や小説の観点は、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。作品の観点とは、作品の主題や中心テーマ、作者の考えや感情、登場人物の心理や感情、環境の描写、時間や場所の描写などである。

「文学的な文章を読む ために」(1年)

「文学を読むための基本的な学習用語が整理されています。必要に応じて示されている、教科書本文の用例は、子どもたちと確認するときに活用できそうです」と、甲斐先生。